

鷄肉情勢

令和6年9月9日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

供給

2. 輸入

需要

1. 家計消費

需要

2. 量販・卸

需要

3. 業務・加工筋

在庫

1. 令和6年7月

在庫

2. 見通し

相場

1. 令和6年7月動向

相場

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年8月末実施)によると、7月の推計実績は処理羽数60,828千羽(前年比103.8%)、処理重量182.6千トン(同104.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.1%の下方修正となり、処理重量は1.2%上方修正された。土・日・祝日が前年から2日減少(今年9日、昨年11日)したことによる処理工場の稼働日増により処理羽数が増加し、重量ベースでは生鳥の増体性能や飼料の改良が進んだことによる餌食いの向上により処理重量が増加したと考える。

(2) 8月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで変更は無かった。育成は比較的順調で食餌量が例年ほど落ち込まず、熱死も多くなかった。しかし、台風10号による処理工場休業があったことから、次月集計時に下方修正されるのではないだろうか。

9月については、土・日・祝日が前年から1日増加(今年11日、昨年10日)したことで処理工場の稼働日減により処理羽数が前年を下回っているものの、前述の台風10号による処理工場の振替稼働を実施する産地もあることから処理羽数・処理重量は上方修正されるのではないだろうか。

工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

(1) 財務省8月29日公表の貿易統計によると、令和6年7月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+2.4千トンの51.8千トン、国別ではブラジルが前月+0.3千トンの35.5千トン、タイが+2.0千トンの15.5千トンとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は8月が49.5千トン(前年比88.4%)、9月は56.6千トン(同117.0%)となっている。7月のブラジルの船積み量が47.0千トン程度であることから9月の輸入量が増加する見通しだ。直近では為替が円高に振れているものの、調達コスト全般が上昇傾向にあり、輸入量を抑えることが考えられるが、食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が上がることを見越し、積極的に在庫を抑えている業者もあるようだ。ただし、不透明な為替動向および南米における鳥インフルエンザ発生リスクなどにも注視する必要があるようだ。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+4.8千トンの47.5千トンで国別では中国が+3.5千トン、タイが+1.4千トンとなった。前年同月実績39.5千トンとの差は+8.0千トンとなり、前月比・前年比ともに上回る結果となった。

国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高いため、4月-7月は40.0千トンを超えたと考える。しかし、コスト高・為替(円安)もあるため輸入量が今後急増することは考えにくい。

(3) 財務省が8月29日に公表した貿易統計によると、7月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より▲0.9%となった。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が313円/kg(前月比+10円)、タイ産が453円/kg(同+10円)となっている(国別平均価格)。前年同月から価格が下落したのは輸入量全体の大半を占めるブラジル産の価格が他国よりも比較的安価であり、輸入量が増加したため。鶏肉調整品は中国が前年同月より10.9%上昇、タイが6.6%上昇した。

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年7月の生鮮肉消費(購入)は数量3,887g(前年比99.0%)、金額6,183円(同98.8%)と、重量・金額ともに前年を下回った。昨年8月は土・日・祝日が11日間で今年よりも2日多かったことから今年8月は購入機会が減少したと考える。鶏肉は数量1,385g(同101.8%)・金額1,411円(同99.2%)・単価102円/100g(前年同月▲2円)と、数量は前年を上回ったものの、金額・単価は前年を下回った。調理食品が金額13,291円(同100.7%)、外食が15,662円(同106.9%)となっている。畜産の購入数量は牛肉・豚肉が前年を下回り、鶏肉が前年を上回る結果となった。輸入品含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年7月の食品売上高は全店ベースで前年比101.3%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同101.3%、既存店ベースは同100.3%となった。また、畜産部門の売上高は約1,183億円で全店ベース同100.1%、既存店ベース同99.1%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「土日が1日ずつ少ない影響のほか、国産・輸入ともに相場高傾向で販促が組みにくく、牛肉や豚肉から、比較的値ごろ感のある鶏肉への需要シフト傾向が続いている。和牛など高単価商品は低迷が続き、ひき肉や小間切れなどの低価格商品の動きが顕著で単価が下落した。猛暑の影響で、バーベキュー、ステーキ、焼肉、冷しゃぶなどの商材は動きがよかったとのコメントもみられたが、梅雨明けの遅れ、豪雨による影響がみられた地域も。加工肉は一般的な価格上昇によって不調とする店舗が多い。」とコメントがあった。気候・暦の関係はあるものの、安価な商品に需要が集中しているようだ。

(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和6年7月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.8%の5.0千トンとなった。うち国内品は同108.1%の4.0千トンと前年を上回り、輸入品については同83.2%の1.0千トンと前年を下回った。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の7月末時点推定期末在庫では国産35.5千トン(前年比115.9%・前月差▲1.2千トン)、輸入品133.6千トン(同103.1%・同+0.5千トン)と合計で169.1千トン(同105.5%・同▲0.7千トン)となった。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、7月の出回り量は国産141.0千トン(前年比107.1%・前月差▲1.3千トン)、輸入品51.3千トン(同101.1%・同+4.0千トン)と合計で192.2千トン(同105.4%・同+2.7千トン)となった。前月からは国産の出回り量が減少し、輸入品が増加している。国産の減少については、豪雨・酷暑などの気候や土・日・祝日が前月より1日少なかったことや影響していると考えられる。7月以降の在庫については国内生産順調・輸入量増加傾向・出回り量増加傾向であるため、一時的に在庫が増加する可能性があるものの、消費者の節約志向による鶏肉への需要シフトが続く気配が強いいため、暫くは現在の水準を推移していくのではないだろうか。

(1) 令和6年8月の月平均相場は、モモ肉613円/kg(前月差±0円)・ムネ肉359円/kg(同+4円)正肉合計で972円/2kgと前月を4円上回り、前年同月を85円下回った。モモ肉相場は月初612円、月末は621円となり(昨年は月初688円、月末657円)、前年の相場を下回った。生産においては、各産地の処理羽数増や増体向上等から、全国的に順調に推移した。モモ肉については年末用の確保があるものの生鮮で売り切る動きが強く、余剰在庫を持たないように販促をかけているようだ。ムネ肉については輸入食品全般の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっており、量販店での動きも活発化している。輸入鶏肉については先々の需要増・コスト高を見越して在庫確保を積極的に行う業者がいるため安価な商品が殆ど出回っていないと聞かれる。通常、夏季では手羽もとの動きが鈍くなるものの、輸入品を中心に他畜肉の価格が上がっていることから安価な商材として利用されており動きは良いようだ。ササミ・手羽さきについては輸入品の高騰もあり国産品の集荷が難しい。内臓関係については、夏場特有の崩れによる商品化率悪化により流通量が減っている。

(1) 8月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を上回る計画であり順調な生産だった。9月については生産・処理動向調査では処理羽数の減少が見込まれるものの、台風10号の振替稼働が一部産地で発生することや、生鳥の増体が良いことから処理重量ベースで前年を下回することは考えにくい。販売については家計調査を見ても牛肉→豚肉、豚肉→鶏肉への需要シフトは進んでおり、消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中することが予想されることに加え、学校給食が再開することから順調に推移するのでは。輸入鶏肉については9月の入荷量が大幅に増加する見通しではあるが、業務筋での利用中心になることが予想され、先々のコスト高を見据えての輸入量増であれば一時的に在庫は増加するものの緩やかに減少し、市況が崩れることは考えにくい。9月のモモ肉相場はやや上げの月平均615円、ムネ肉相場は若干上げの月平均365円と予測する。例年通り年末に向けて鶏肉相場は上昇傾向に推移していくと考える。

(2) 見通しに折り込むことが難しい事案として、国内・国外の鳥インフルエンザを挙げる。養鶏場・家きん農場で発生した鳥インフルエンザは2023年11事例、2022年84事例、2021年25事例、2020年52事例となっている。2023年は関東から四国・九州にかけて発生したものの、2022年については北海道から沖縄までの26道県で発生しており、農林水産省の集計では肉用鶏・採卵鶏・アヒルなどの全種で1,771万羽が殺処分となっている。また、7月末に日本銀行が追加利上げを発表し円高へ推移したが、今後も為替が極端に変動すれば輸入鶏肉の価格・輸入量に影響が出る可能性も考えられる。

実績

生産状況

	R5年累計(推計)		R6年7月 推計実績		R6年8月計画		R6年9月計画		R6年10月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	64,670	103.7%	68,513	100.4%	65,342	96.2%	71,109	99.9%
処理羽数	743,734	100.9%	60,828	103.8%	60,292	100.1%	59,312	97.6%	63,446	99.9%
処理重量	2,240.5	101.0%	182.6	104.2%	178.1	101.5%	176.9	100.2%	195.0	102.1%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年3月	52.7	47.5	110.8	38.3	40.6	94.5	91.0	88.1	103.3	57.9	42.1
R6年4月	52.0	47.4	109.7	44.6	39.9	111.9	96.7	87.3	110.7	53.8	46.2
R6年5月	53.3	51.7	103.0	40.8	35.4	115.0	94.0	87.2	107.9	56.6	43.4
R6年6月	49.4	57.7	85.6	42.6	39.7	107.2	92.0	97.4	94.4	53.7	46.3
R6年7月	51.8	46.7	110.9	47.5	39.5	120.2	99.2	86.2	115.2	52.2	47.8

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年3月	1,614	1,497	107.8	1,650	1,511	109.2
R6年4月	1,509	1,572	96.0	1,539	1,566	98.3
R6年5月	1,569	1,485	105.7	1,585	1,530	103.6
R6年6月	1,568	1,455	107.8	1,524	1,492	102.1
R6年7月	1,385	1,361	101.8	1,411	1,422	99.2

※参考資料: 総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

在庫状況(推定)

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年3月	36.9	27.0	136.3	129.1	126.9	101.8	166.0	153.9	107.8
R6年4月	35.5	27.5	128.9	127.1	119.5	106.3	162.6	147.1	110.5
R6年5月	36.3	29.3	123.6	131.0	127.5	102.8	167.3	156.8	106.7
R6年6月	36.7	28.6	128.4	133.1	133.6	99.6	169.8	162.2	104.7
R6年7月	35.5	30.6	115.9	133.6	129.6	103.1	169.1	160.2	105.5

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年3月	141.5	140.8	100.4	47.7	48.8	97.7	189.2	189.6	99.7
R6年4月	147.4	138.8	106.2	54.1	54.8	98.7	201.5	193.6	104.1
R6年5月	146.0	140.7	103.8	49.3	43.7	112.7	195.3	184.4	105.9
R6年6月	142.3	142.1	100.1	47.3	51.6	91.8	189.7	193.7	97.9
R6年7月	141.0	131.7	107.1	51.3	50.7	101.1	192.2	182.3	105.4

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年5月	631	774	81.5	354	408	86.8	985	1,182	83.3
R6年6月	619	745	83.1	354	405	87.4	973	1,150	84.6
R6年7月	613	709	86.5	355	398	89.2	968	1,107	87.4
R6年8月	613	674	90.9	359	383	93.7	972	1,057	92.0
R6年9月	(615)	646	95.2	(365)	374	97.6	(980)	1,020	96.1
R6年10月	(625)	649	96.3	(370)	369	100.3	(995)	1,018	97.7

※()は見通し